平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人千葉大学

１ 全体評価

千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」という理念の下、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命としている。第３期中期目標期間においては、世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学として、優れた教育プログラムと最善の環境の提供による高い問題解決能力を備えたグローバル人材の育成や、先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進するとともに、特色ある研究分野を戦略的に強化することで世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に結び付く世界水準の教育研究拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、グローバル人材育成戦略として「学部・大学院生の全員留学」を目指した教育改革に取り組むとともに、未来医療教育研究機構を中心とした産学連携教育体制を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　未来医療教育研究機構が中心となり、新規の治療薬・治療法の開発、事業展開・統括等を世界的に推進できる博士人材を養成することを目的として、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、カリフォルニア大学サンディエゴ校及び国内企業が連携して国際治療学研究教育ハブ拠点を形成するとともに、産学連携治療学講座を設置し、産学連携教育体制を整備している。（ユニット「グローバルプロミネント研究基幹による独創的な次世代研究の創出と戦略的推進」に関する取組）

○　社会のニーズに対応した効果的な教育研究を推進するため、治療学分野では「医学研究院附属治療学人工知能（AI）研究センター」を設置するとともに、日本マイクロソフト株式会社と包括連携協定の締結を目指している。（ユニット「国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成」に関する取組）

○　国際的にも活躍できる人材育成のため、「千葉大学における英語教育の目的と特徴」を策定し、各学部の英語力の到達度水準に係るルーブリックを作成するとともに、すべての海外拠点をマネジメントする「グローバル・キャンパス推進基幹」を創設し、「戦略拠点（海外キャンパス）」と位置付けた既存の拠点にキャンパス長、プログラム・マネージャー（バンコク担当）を配置するなど、バンコク・キャンパスを中心としたタイ・アセアン圏大学との交流促進の環境を整備している。（ユニット「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載17事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成29年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”

“学部・大学院生の全員留学”を目指して、グローバル人材育成戦略を更に拡大展開するプランとして、「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を策定し、令和2年度から新たに実施することを決定している。

○ クロスアポイントメント制度による人材の好循環

「国立大学法人千葉大学クロスアポイントメント制度に関する規程」に基づき、民間企業も含めた他機関と６件のクロスアポイントメント協定を締結している。大学が地域の企業と協働して地方創生に取り組むための「地方創生戦略研究推進プラットフォーム」の展開に貢献する人材や臨床・基礎医学教室との共同研究成果を社会実装につなげる枠組みに貢献する人材等、従前の制度では得難い人材を民間企業等から活用することで、教育・研究・産学連携活動等を推進している。

○ 萩庭植物標本画像データへのDOI付与

千葉大学学術成果リポジトリ（CURATOR）において、公開している萩庭植物標本画像51,819点に電子的なコンテンツの国際的な識別子であるDOI（Digital Object Identifier）が国内機関リポジトリの研究データで初めて付与されている。DOI付与により、コンテンツへの永続的なアクセスが保たれるとともに、アクセスを容易にし、研究データとしての流通性が高められている。

共同利用・共同研究拠点

○ 異なる細胞機能間の相互作用の解明

真菌医学研究センターでは、東京大学の研究グループとの共同研究により、非自己RNA検知とRNAサイレンシングという異なる細胞機能間の相互作用を明らかにし、その研究成果を英国科学雑誌「Nucleic Acids Research」に発表している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 病院経営人材養成の推進

「ちば医経塾－病院経営スペシャリスト養成プログラム－」において、平成30年度は23名が修了し、平成31年度においても定員を超える応募があるなど、医療の特殊性を理解し経営マインドやマネジメントスキルを持つ人材の育成を行っている。

（診療面）

○ 臨床法医外来の開設

子供が虐待されているかどうかを専門的に見極めるための試みとして、千葉県警や児童相談所が保護した子供を小児科医と法医学を専門とする医師が協力し診断する、児童虐待の痕跡や兆候の見落としを防ぐことを目的とした「臨床法医外来」を開設し、医学部法医学教室から児童相談所あてに意見書を発行し、児童相談所が虐待か否かを判断するための客観的なエビデンスを提供することで、虐待の早期発見や見落とし防止に貢献している。

（運営面）

○ 病院長企画室を中心とした経営戦略

病院長直轄の組織である、病院運営、特に経営に関する課題について企画立案する病院長企画室を中心に、経営戦略や経営戦略の達成に向けた具体的な取組を示した実践指針を策定し、当該達成に資する指標の進捗状況を各種会議等で共有することにより、指標である「新入院患者数」、「診療の収益性」が共に増加している。